

反貧困フェスタ 2009 メイン企画シンポジウム いま“はたらく” が危ない

雇用の破壊による貧困化が進んでいます。

「派遣切り」やリストラ・解雇で仕事と住まいを同時に失う人が膨大に生まれています。働いても満足に食べていけない低賃金のワーキングプアが増えています。過酷な労働で命を奪われる過労死も後を絶ちません。

しかし、悲惨な働き方や暮らしを「自己責任」で片づける考え方がなお大手を振っています。働く側にも差別や分断を乗り越えられず、「団結」や「連帯」を十分に広げられてはいません。

今年のフェスタのメイン企画である体育館シンポは「いま、はたらくが危ない」と題して労働をテーマに貧困問題を考えます。

前半は年末年始の「派遣村」に身を寄せた村民の話を皮切りに、あらためて様々な雇用形態ではたらく人、さらには労働市場から排除された失業状態の人たちの声に耳を傾けて、それぞれの「生きづらさ」を探ります。



後半のパネルディスカッションでは、労働組合の全国組織（ナショナルセンター）と「反貧困」の運動を担っている人たちが「この社会はどうあるべきか」「いま、私たちは何をなすべきか」を討論します。

「労働×貧困」をみんなで見聞き、語り、考えましょう！

シンポジウム 「いま “はたらく” が危ない」

時間 12:00～15:45
場所 体育館

開会時に「派遣村」のビデオを上映します。

★前半＜当事者発言＞

コーディネーター

雨宮処凛（反貧困ネットワーク副代表）

湯浅誠（反貧困ネットワーク事務局長）

こんな人が発言する予定です。

■派遣村の「村民」 ■製造業で派遣切りにあった人 ■事務系の派遣労働者 ■有期雇用のパート労働者 ■差別的な待遇で働く障害者 ■官製ワーキングプア ■大企業の正社員 ■過労死の遺族 ■「福祉的就労」で働く障害者 ■雇用保険から排除された失業者



★後半＜パネルディスカッション＞

コーディネーター

東海林智（ジャーナリスト・毎日新聞記者）

パネリスト

■龍井葉二（連合） ■井筒百子（全労連） ■遠藤一郎（全労協） ■伊藤みどり（働く女性の全国センター） ■赤石千衣子（しんぐるまざあず・ふぉーらむ） ■山本創（D P I 日本会議） ■中村光男（企業組合あうん）

シンポ終了後は校庭で閉会式を行います。

